

## 議長の一言



佐藤 峯夫

一九六七年初出馬の時、中曽根康弘先生から次の言葉を贈られた。

- 一、大局的立場に立て
- 一、いたずらに政党（党派）に流されるな
- 一、損得で動くな

そして、右三箇条を守れる人こそ選挙民から指示を受けるだろう……と。

現在でも私共議員に求めて止まない教えであり教訓でもある。

まして自らの報酬などは、各党派合意の下に尊重されるのが慣例である。

合意を求めずして審議された本議会を市民はどう受け止め評価するのだろうか。

（二〇〇八・三・十九記）

## 請願・陳情 ・意見書

### 採択されたもの

- ・秋田内陸縦貫鉄道存続に関する陳情書
- ・地域別最低賃金の引き上げと最低賃金制度の改正を求める陳情

### 継続審査となったもの

- ・地籍調査の修正法について
- ・住宅地内の前川水路一部改修の陳情（更に調査が必要な為）

### 意見書

- ・一級河川の権限委譲に関する意見書
- ・道路特定財源の確保に関する意見書
- ・地域別最低賃金の引き上げと最低賃金制度の改正を求める意見書

各関係機関に提出されました。

# 控室風景

## 意欲

生活関連商品の値上げが相次いでいる。

大手企業はそっくり価格転嫁をするが、値上げを言い出さうものなら即、契約打ち切りになり、自らで吸収するしかない中小企業、そして農業だ。

今回、一般質問者の半数が農業問題をとり上げた。その中で若手議員の現状を訴える声に胸を打たれる。

「米一俵生産するに二万円かかる。これでは再生産出来ない。意欲を持つる施策を急げ」と詰めよる。

農業総生産額七十億円のうち、米は四十億、畜産十五億のうち一養鶏業者が十億であり、しかも大量の雇用も生む。

農業の発想の転換が、今後の決め手であることは疑う余地はない。

市長の答弁は慎重であったが、今年には市独自の安定策のスタートの年とならなければならない。

# 傍聴席

田村貞良（生保内）

戦後の復興に頑張ってきた市民の功績にもっと手厚い福祉の施策が講じられないものかと考えさせられた。

全ての市民に身近な生命、健康を守るための医療問題は緊急の課題である。

合併しない方がよかったと言われる事のないよう全市民力を合わせて生活向上のために力を尽くさなければならぬと思いつつ議場を後にした。

## 編集後記

「読みたくなる記事を書くということは大変です。」  
「議会だより」ですから「その通り、事実を皆様に伝えるのが仕事」ですが、言つのは易し行つは難し、というのがピツタシカンカン。

表現の仕方を子供達にも分かる様に書かなければなりません。

今の社会は当たり前前事が、当たり前でない事が多すぎます。

何も無理をしなくても良いと思います。  
当たり前が良いのです。

「議会だより」の編集の基本的な考え方はそういう事です。